

三河ガヲ紡績発祥の地

鬼祭り
で知られる名刹滝山寺（岡崎市滝町）は、矢作川の支流、青木川沿いにある。その滝山寺の前の日影橋に立つと、川に沿う集落を一望できる。かつてその大部分は、ガラ紡工場であった。青木川は急流である。河床は岩盤でできていて堰堤は築きやすく、その水の流れを利用して、水車によるガラ紡績が栄えたのであった。取水のために築かれた堰堤が階段状になって水を落としている様は往時を語っている。青木川沿いの滝町、米河内町のガラ紡業者は、明治22年(1889)に50、戦後の最盛期には94を数えたが、久しくガラ紡を営むものはない。

愛知県史（大正3年版）によれば、明治10年（1877）に宮島清蔵が滝町の野村茂平次方の水車を借りて紡績をはじめたとある。その翌年、甲村瀧三郎が手回しガラ紡績機を動かして、明治12年（1879）に高岡村（現豊田市）で水車による臥雲式機械（ガラ紡績機）の運転に成功している。水車紡績のはじまりであった。その後、甲村瀧三郎は野村茂平次らとともに額田紡績組合を結成し、ガラ紡の普及発展に努めたのである。この青木川流域には、ガラ紡工場の姿を残す粗壁の建物が多かったが平成2年（1990）に調査したところではほとんどの建物が建て替えられていた。現在の風景からは当時の様子を想起することはできなくなっているが、水車用の堰堤はガラ紡が三河で最初にこの地



甲村瀧三郎（1840～1903）

額田紡績組合を結成
出典：『実業人傑傳』

ではじめられたことの証として残っている。



三河ガラ紡績発祥の地 青木川にはガラ紡績工場の堰堤が階段状に遺っている